かけがえのないあなただから

飲酒運転撲滅

他人事にしないことが一番の予防策

飲酒運転をする人の**３つのタイプ**

タイプ１　遵法精神が希薄で、取締りに遭わず事故さえ起こさなければ良いと考えて飲酒運転してしまう人。

→飲酒運転の危険性がわかっていない人です。飲酒運転しても 100％事故を起こすわけではないので、**「自分だけは大丈夫」**という自己別在の心理が働いてしまいます。

タイプ２　飲酒して気が変わって運転してしまう人

→アルコールは自制心をマヒさせる薬物とも考えられます。飲酒運転は危険だからタクシーで帰ろうと思っていても、飲んでしまうと考えが変わり、このぐらいなら大丈夫と思って飲酒運転をしてしまいます。**お酒を飲んでしまっている人の判断は信用できません。**

タイプ３　アルコール依存症またはそれに近く、飲酒と運転が切り離せないで飲酒運転してしまう人

→**アルコール依存症の人は自分で飲酒行動をコントロールできません。**悪化すると「飲まないと落ち着かない」という精神状態に陥ります。もはや**「運転するから飲んではいけない」という我慢ができなくなります。**

参考資料：鈴木由紀生 氏　「飲酒運転をする人が後を絶たないのはなぜ？」
公益社団法人日本心理学会　ホームページ
https://psych.or.jp

甘かった認識　飲酒運転で実刑判決を受けたＫさんの手記より（一部抜粋・編集）

　お酒を飲んでも自分は運転がうまいし、酔わないから運転しても事故さえ起こさなければ大丈夫……。そんな風に考えることが恐ろしい過ちであることを、私は身をもって知りました。アルコールの影響下で運転をすることは、その事を認識しているいないにかかわらず、運動能力、判断力など、運転する上で重要な鍵を握る各種の能力を著しく低下させ、第３者を巻き込む重大な事故を起こす可能性をもちます。よって飲酒運転は、**“未必の殺人”**として罰せされるべき重大な「犯罪」なのです……。

　今や、社会的地位も、経済的基盤も完全に失い、呆然と反省することしか私にはできません。人生の全てが根元から変わってしまいました。これからどう生きていったらよいかもわかりません。違反を起こした日に戻れるなら、飲酒して運転することなど死んでもしない。しかし、どれほど望んでも時計の針を戻すことはできない。なんということを自分はしてしまったのか。そんな砂を噛むような思いに苛まれながら、毎日時間が過ぎていきます。

　お酒を飲んで運転し事故を起こし第三者を巻き込むことにより、一生を棒に振ってしまう人が後をたたないだけではありません。もし、幸いにして私のように事故を起こさないとしても、お酒を飲んで運転をすることは重大かつ深刻な犯罪であること。その行為を罰する法律は容赦なく厳格であることを忘れてはならないと思います。

そして、それは、あなたの人生にも起こりうることだということも。

資料：特定非営利活動法人ＡＳＫ　ホームページ
https://www.ask.or.jp